報道関係各位

宝塚市立文化芸術センター

2024年6月25日
【2024年9月13日更新】
宝塚市立文化芸術センター

― 宝塚市ゆかりのアーティストを紹介する『Made in Takarazuka』シリーズ第５弾（最終回） ―

彫刻家・小清水漸の作品を一堂に展示し、半世紀以上にわたる創作活動を辿る

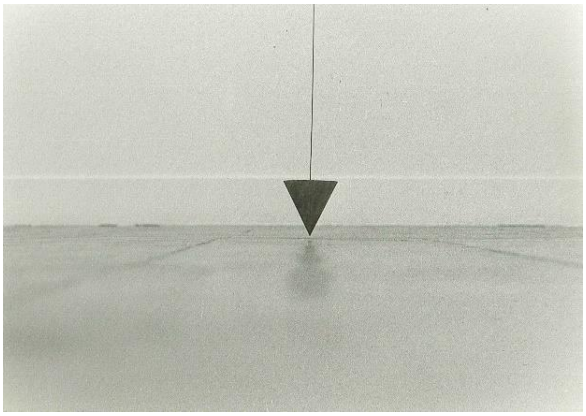
企画展「小清水漸の彫刻 1969～2024・雲のひまの舟」開催

KOSHIMIZU Susumu ART WORKS 1969-2024

会期：2024年９月14日（土）～10月15日（火）

会場：宝塚市立文化芸術センター 2階メインギャラリー、屋上庭園（宝塚市武庫川町7-64）

宝塚市立文化芸術センター（所在地：兵庫県宝塚市/館長：加藤 義夫）は、2024年9月14日（土）から10月15日（火）の期間、宝塚市ゆかりのアーティストを紹介する『Made in Takarazuka』シリーズ第５弾（最終回）として、**企画展「小清水漸の彫刻 1969～2024・雲のひまの舟」を開催**いたします。本展覧会では、ヴェネチア・ビエンナーレやサンパウロ・ビエンナーレなど数々の大型国際展をはじめ、国内外で幅広く発表し活躍する宝塚市在住の彫刻家・小清水漸の半世紀以上にわたる創作活動を辿ります。



▲《垂線》1969年

◀《作業台－表面から表面へ》2016年
小清水漸 Blum & Poe（東京）での展示風景画像、2016年
© Susumu Koshimizu; Courtesy of the artist and BLUM Los Angeles, Tokyo, New York
Photo: Keizo Kioku

小清水漸（こしみず　すすむ・1944年～）は、戦後の日本美術史の重要な芸術動向のひとつである「もの派」を代表する美術作家のひとりであり、現代日本を代表する彫刻家です。本展では、小清水漸の半世紀以上にわたる創作活動から代表的な作品やシリーズ作品をご紹介します。もの派時代から現在まで、作品制作を通して美術の根源への問いかけを真摯に続けている作家の足跡をぜひご高覧ください。

なお、本展では、**屋上庭園にて、150個のガラス玉を使ったインスタレーション作品《武庫の水 空へ》を展示**します。

▼『Made in Takarazuka』シリーズについて【全５回シリーズ】

宝塚市立文化芸術センターは、宝塚市内の芸術家にスポットを当てることを目的に、2020年度から宝塚市ゆかりのアーティストを紹介する『Made in Takarazuka』シリーズを展開しています。

<これまでに同シリーズで開催された展覧会>

第1弾「辻 司 七〇年の絵路 ―メアンドロの光芒―」（2020年11月14日～12月20日）
第2弾「中辻悦子展―WHO IS THIS？　あなたは、誰れ―」（2021年9月4日～10月11日）
第3弾「松井桂三展|化学反応実験」（2022年4月14日～5月14日）
第4弾「入るかな？ はみ出ちゃった。～宮本佳明 建築団地」（2023年9月16日～10月22日）
※本展にて、文化庁・第74回芸術選奨文部科学大臣賞を宮本佳明氏が受賞されました。

《報道関係者お問い合わせ先》
宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂
MOBILE:090-6065-0063(馬場) 090-5667-3041(永井)
TEL：050-1807-2919　FAX：06-6231-4440　E-mail：takarazuka@tm-office.co.jp

開催概要

展覧会名：Made in Takarazuka Vol.5
「小清水漸の彫刻 1969～2024・雲のひまの舟」
（英文）KOSHIMIZU Susumu ART WORKS 1969-2024
会　　期：2024年9月14日（土）～10月15日（火）
休 館 日 ：毎週水曜日
開館時間：メインギャラリー：10時～18時（入館は17時30分まで）
屋上庭園：10時～18時（庭園エリアは入場無料）
会　　場：宝塚市立文化芸術センター 2階メインギャラリー、屋上庭園
（〒665-0844　兵庫県宝塚市武庫川町7-64）
公式WEBサイト　https://takarazuka-arts-center.jp
観 覧 料 ：一般（高校生以上）1,000円（メインギャラリーのみ）
※中学生以下無料
※障がい者手帳提示でご本人様、付添の方1名まで無料
問い合わせ：宝塚市立文化芸術センター　TEL:0797-62-6800

主　　催：宝塚市立文化芸術センター（指定管理者：宝塚みらい創造ファクトリー）
協　　力：ギャラリーヤマキファインアート、東京画廊＋BTAP、
BLUM Los Angeles, Tokyo, New York、YOD Gallery
後　　援：神戸新聞社

＜一般招待者、パートナー会員内覧＞2024年9月13日（金）12:00～15:00
＜記者内覧＞2024年9月13日（金）16:00～17:00 （受付：15:30～）

関連イベント

◆ パートナーズサロン
《対談》小清水漸（出品作家）×加藤義夫（宝塚市立文化芸術センター 館長）

語り手：小清水漸（出品作家）／聞き手・進行：加藤義夫（宝塚市立文化芸術センター 館長）
日　時：2024年9月23日（月祝）14:00～15:30
会　場：宝塚市立文化芸術センター　1階キューブホール
定　員：50名（要予約）　※2024年度パートナー会員限定、当日入会可（年会費2,500円）
申込受付開始：2024年8月1日（木）10:00より
宝塚市立文化芸術センターの公式WEBサイト https://takarazuka-arts-center.jp より
お申込みください。

◆ アーティストトーク

日　時：2024年10月5日（土）14:00～15:00
会　場：宝塚市立文化芸術センター　庭園内ガーデンハウス
対　象：どなたでも
定　員：40名（要整理券）　※当日10:00より展覧会入場受付にて整理券配布
（2024年度パートナー会員証または当日の入場券提示が必要です）

見どころ

1．小清水漸の代表作や主な作品シリーズから選ばれた作品を一堂に展覧！

展示作品から、作家の半世紀以上にわたる創作活動の足跡をたどることができます。

2．屋上庭園で、本展のためのインスタレーション作品《武庫の水 空へ》を展示！

通常の企画展では2階メインギャラリーを中心に作品展示していますが、今回はセンターの屋上庭園でも展示を行います。神戸開港150年記念「港都KOBE芸術祭」(2017年）で展示された150個のガラス玉を使ったインスタレーション作品が、武庫川の水をイメージした“宝塚バージョン”・《武庫の水 空へ》として新たに発表されます。秋空の下、爽やかな風が吹き抜ける屋上庭園での作品鑑賞がお楽しみいただけます。(※屋上庭園での作品展示は、18時まで、どなたでも自由にご覧いただけます)

◆主な出品作品（予定）

・《垂線》　・《箱》シリーズ　・《表面から表面へ》シリーズ　・《作業台》シリーズ
・《遊戯の彫刻》シリーズ　・《水浮器》シリーズ　・《レリーフ》シリーズ
・《武庫の水 空へ》※屋上庭園でのインスタレーション作品展示

▲《作業台－クロモジ》2010年

▲《水浮器－月の赤－》1988年
撮影：キリコ

展覧会によせて

▲加藤館長

日本の戦後美術の魅力とは、西洋近代主義の価値観を疑い、ようやく乗り越え、世界的に再評価がすすんだことでしょう。明治期の近代化とは西洋化にほかならなかったわけで、美術の枠組みも例外ではなく、西洋のモダニズムを受容し形成されてきました。そうした流れのなかで、日本独自の美術思考を模索したのが、戦後日本美術史の重要な動きである「もの派」です。「もの派」の作家たちは、作品を完結したものではなく、自己と世界の出会いの場と考え、物の存在を通して世界を認識しました。その「もの派」の中心的作家で日本を代表する彫刻家のひとりが、小清水漸先生です。

小清水先生は当初「もの派」を出発点としましたが、その後の作品展開は美術と工芸のはざまを横断し交通しながら、彫刻素材の持つ特性に注目していきます。小清水彫刻の魅力のひとつは素材表現にあり、彫刻と環境空間へのアプローチにも独自の視点が感じられます。

本展は、半世紀以上におよぶ小清水先生の創作活動の集大成的な大回顧展です。

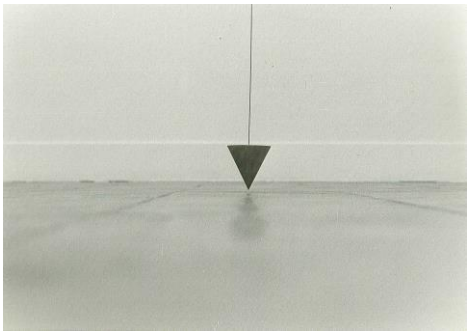
宝塚市立文化芸術センター館長　加藤義夫

主な出展作品

◆《垂線（すいせん）》

天井からまっすぐ伸びた垂直線の先に吊り下げられた円錐形の分銅が、床の一点を指し示します。本作は、1968年に関根伸夫が発表した《位相－大地》（＊）の制作現場に立ち合い、触発され、その翌年に発表した作品です。小清水が自らの制作の原点に立ち返ったとされる重要な作品です。

（＊）《位相－大地》は「もの派」の起点となる作品とされています。



▲《垂線》1969年

◆《箱》シリーズ

1992年に初めて登場し、主に90年代に発表した作品シリーズです。箱には、“大切なものを収納する”という役割があります。本シリーズの作品内側は、水と黄土や、折りたためる大理石の塔などが収納される構造になっています。箱には持ち運びできる特性もあることから、どこでも展示できる「旅する彫刻」としても考えられています。

▲《塔櫃》1993年

▲《水の長持》1992年

◆《表面から表面へ》シリーズ

1971年から手掛けている作品。複数の同形木材の表面に異なる幾何学的な模様を配しています。電気ノコギリで削られた木材の表面は、木の質を変えず、見る者に作品へのイマジネーションを与えることなく、見た瞬間に作品のすべてが伝わることを意図して制作されています。

▲《表面から表面へ》1971年/2022年
©Hirokatsu Yamamoto

◆《作業台》シリーズ

《作業台》の最初の作品は1975年の個展で発表されました。東京を離れ、関西へ拠点を移してから始めた作品シリーズです。作品を制作する台もその作品の一部となるという気づきから、「作業台」＝「テーブル」のもつ無限の可能性が作品をとおして表現されています。

▲《作業台－新月のアルテーミス》
1997年

▲《作業台－表面から表面へ》2016年
小清水漸 Blum & Poe （東京）での展示風景画像、2016年
© Susumu Koshimizu; Courtesy of the artist and BLUM
Los Angeles, Tokyo, New York　Photo: Keizo Kioku

◆《遊戯の彫刻》シリーズ

2010年頃から制作しているシリーズです。一点一点は異なる表現方法をとる作品です。作家が自由な気持ちで制作した作品群といえます。

▲《作業台－アリアドネのテーブルクロス》2010年
©Hirokatsu Yamamoto

◆《水浮器》シリーズ

1975年以降、信楽で制作された陶器を使った作品が発表されます。小清水にとってはあくまでも彫刻作品の一環として、工芸とは一線を画するものと考えて制作しています。「器」と「水」とそこに浮く「浮子」とで成立する彫刻として見られるよう意図されています。

《水浮器－月の赤－》（部分）1988年
撮影：キリコ▶

◆《レリーフ》シリーズ

1970年代の後半以降から盛んに制作したのが、木彫のレリーフ作品です。かつて「絵画でも立体彫刻でもないレリーフというどっちつかずの世界はすごく魅力があるのも確か」と小清水は語っています。また、「レリーフの表面はテーブルの天板の広がりにつながる」として、さまざまな試み（刻み目を入れる、削る、彫って木版の版木のようにする、わざと素材の異なるものを埋め込む等）が作品に展開されています。

▲《Relief, Line -ballon》2015年

▲《レリーフ－ウィリアムの花－》2001年

▼屋上庭園でのインスタレーション展示

◆《武庫の水 空へ》

2017年、神戸開港150年記念「港都KOBE芸術祭」で発表されたガラス玉を使ったインスタレーション作品《150年の水を漁（すなど）る》。今回は宝塚バージョンとして新たに武庫川の水をイメージし、屋上庭園に展示します。

展示イメージ▶

＜宝塚市立文化芸術センターの屋上庭園について＞

建物上部の「屋上庭園」は原っぱの丘をイメージ。360度見渡せる開放的な空間で、屋根付きのベンチもある、人びとの憩いの場です。ミソハギやホタルブクロなどの多年草から、秋の七草のひとつフジバカマヤオミナエシなど、日本各地で見られる草花が見られます。

小清水漸（こしみず・すすむ）プロフィール

▼プロフィール

小清水 漸　KOSHIMIZU Susumu（1944～）
美術家　宝塚大学前学長　京都市立芸術大学名誉教授
愛媛県宇和島市出身、1966年から1970年まで多摩美術大学彫刻科に在籍。1973年に東京を離れて関西に拠点を移す。現在は宝塚市在住。

▲小清水漸氏

1960年代後半から70年代にかけて台頭した「もの派」グループの中心的メンバーとして活動。1970年「第10回日本国際美術展《人間と物質》」に参加、その後1971年「第７回パリ青年ビエンナーレ」、1976年、1980年「第37回、第39回ヴェネチア・ビエンナーレ」、1983年「第17回サンパウロ・ビエンナーレ」など大型国際展をはじめ国内外で多数の展覧会に参加し、現代日本を代表する美術家、彫刻家の一人として知られている。また、京都市立芸術大学で30年にわたり教鞭をとり、宝塚大学で学長を務めるなど後進の育成にも尽力してきた。
1980年第11回中原悌二郎賞、1981年第10回平櫛田中賞、1988年度芸術選奨文部大臣新人賞、2003年第2回円空大賞をはじめ受賞歴多数。
2004年紫綬褒章受章。

▼略歴

1944　愛媛県宇和島市に生まれる
1966　多摩美術大学彫刻科に入学
1994　京都市立芸術大学教授に就任（～2010）
2010　京都市立芸術大学名誉教授となる
2011　宝塚大学学長に就任（～2014）

▼受賞歴

1972　第2回神戸須磨離宮公園現代彫刻展・宇部市野外美術館賞 受賞
1980　第11回中原悌二郎賞 受賞
1981　第10回平櫛田中賞 受賞
1983　現代美術の新世代展・岡田文化財団賞 受賞
1985　第11回現代日本彫刻展・東京国立近代美術館賞 受賞
1987　第12回現代日本彫刻展・毎日新聞社賞 受賞
1988　昭和62年度芸術選奨文部大臣新人賞 受賞
1989　第2回京都美術文化賞 受賞
1993　第18回吉田五十八賞（内藤廣氏と共同受賞）
1999　京都府文化賞功労賞 受賞
2003　第2回円空大賞 受賞
2004　紫綬褒章 受章
2007　京都市文化功労者

▼おもな個展

2024　小清水漸の彫刻 1969～2024・雲のひまの舟（宝塚市立文化芸術センター、兵庫）
2023　小清水漸個展〈From Surface to Surface〉（YOD Gallery、大阪）
2021　垂線、2010雪のひま（東京画廊＋BTAP、東京）、2001露地:作業台シリーズ、1991・1993・1988・1983・1980 個展（東京画廊、東京）
2019　About the Moment of Relation between Eye, Hand and Matter（Aki Gallery、台北・台湾）
2018　視覚と身体と物質の刹那、2015小清水漸 階の庭、2013個展（ギャラリーヤマキファインアート、兵庫）
2016　小清水漸（Blum & Poe、東京）
2013　Susumu KOSHIMIZU（Blum＆Poe、ロサンゼルス・アメリカ）
2010　小清水漸教授退任記念展〈重力／質量／作業〉（京都市立芸術大学芸大ギャラリー大学会館ホール、京都）
2007・2005・1977・1976・1975 個展（信濃橋画廊、大阪）
2005 小清水漸－木の 石の 水の 色－（町立久方美術館、愛媛）
1999 個展（SOKO東京画廊、東京）
1993 個展（Gallery Kuranuki、大阪）

1993　Susumu KOSHIMIZU（宇和島芸術祭、愛媛）
1992　今日の造形8－彫刻・現代・風土－小清水漸　（岐阜県美術館、岐阜／愛媛県立美術館、愛媛 巡回）
1991・1987　個展（Gallery Koketsu、岐阜）
1991・1988　個展（大雅堂、京都）
1988　水浮器、1981・1978・1975 個展（Gallery16、京都）
　　水浮器（鎌倉画廊、東京）
1987　近作展-1 小清水漸展　（国立国際美術館、大阪）
1985　個展（ギャラリーなかむら、京都）
1985・1983・1978　個展（ギャラリー手、東京）
1984　個展（Institut Français、東京）
1983　個展（梁画廊、京都）
1981　第10回平櫛田中賞受賞記念 小清水漸彫刻展（高島屋、東京）
　　個展（Asahi Gallery、京都）
　　個展（Studio37、京都）
1980　個展（ギャルリーキタノサーカス、兵庫）
1975　個展（Maki Gallery、東京）
1971　個展（ピナール画廊、東京）
　　個展（田村画廊、東京）

▼おもなグループ展、国際展

2024　Thirty Years: Written with a Splash of Blood（BLUM、ロサンゼルス／ニューヨーク・アメリカ／東京）
2012　Requiem for the Sun: The Art of Mono-ha（Blum＆Poe、ロサンゼルス／グラッドストーン／ニューヨーク・アメリカ）
2001　CENTURY CITY Art and Culture in The Modern Metropolis（テート・モダン美術館、ロンドン・イギリス）
1995　1970年－物質と知覚〈もの派と根源を問う作家たち〉（岐阜県立美術館、岐阜／広島市現代美術館、広島／北九州市立美術館、福岡／埼玉県立近代美術館、埼玉／サンテティエンヌ近代美術館、サン=テティエンヌ・フランス 巡回）
1994　JAPANESE ART AFTER 1945（グッゲンハイム美術館ソーホー分館、ニューヨーク・アメリカ／1995サンフランシスコ近代美術館、サンフランシスコ・アメリカ 巡回）
1989　第20回ビエンナーレ・ミデルハイム・ジャパン ユーロパリア'89ジャパン 現代日本彫刻展（ミデルハイム野外彫刻美術館、ミデルハイム・ベルギー）
1986　前衛芸術の日本1910－1970展（ポンピドゥー・センター、パリ・フランス）
1984　現代美術への視点－メタファーとシンボル（東京国立近代美術館、東京／1985国立国際美術館、大阪巡回）
1983　第17回サンパウロ・ビエンナーレ（サンパウロ・ブラジル）
1980　第39回ヴェネチア・ビエンナーレ〈1968-80年における芸術家の実験と作品〉（ヴェニス・イタリア）
1976　第37回ヴェネチア・ビエンナーレ：企画部門〈国際的動向／1972－76〉（ヴェニス・イタリア）
1971　第7回パリ青年ビエンナーレ（パルク・フローラル、パリ・フランス）
1970　第10回日本国際美術展〈人間と物質〉（東京都美術館、東京／京都市美術館、京都／愛知県美術館、愛知 巡回）
1970　現代美術の一断面（東京国立近代美術館、東京）
1969　現代美術の動向 1969（京都国立近代美術館、京都）

ほか多数の展覧会に参加。

＜宝塚市立文化芸術センター 施設データ＞

所在地：〒665-0844 兵庫県宝塚市武庫川町7-64
TEL：0797-62-6800
休館日：水曜日（祝日は開館）
※年末年始（12月29日～1月3日）、その他設備点検などにより臨時休館する場合があります。
開館時間：センター・メインギャラリー・屋上庭園：10時～18時
（メインギャラリーの入館は17時30分まで）
メインガーデン：10時～17時
WEBサイト：https://takarazuka-arts-center.jp/

入館は基本無料。展覧会や催しによっては、一部会場が有料となります。

▲外観

▲1階エリア

◆広報用画像貸出について

本プレスリリースに使用している画像は、広報用素材として貸出いたします。
以下のフォームより申請ください
申込フォーム： https://https://forms.gle/RQJdu6CmCo64w4DH7

◀アクセス
二次元コード

《報道関係者お問い合わせ先》
宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂
MOBILE:090-6065-0063(馬場) 090-5667-3041(永井)
TEL：050-1807-2919　FAX：06-6231-4440　E-mail：takarazuka@tm-office.co.jp

宝塚市立文化芸術センター公式WEBサイト
URL　https://takarazuka-arts-center.jp

◀アクセス
二次元コード